

小林秀雄

kobayashi hideo

小林秀雄
全文芸
全集
時評
上

講談社文芸文庫
Kōdansha Bungei bunko



小林秀雄全文芸時評集 上

常州大学图书馆
keibayashi hiden
小林秀雄
藏书章

講談社

文芸文庫

こばやしひでお ぜんぶんげいじひようしゅう
小林秀雄全文芸時評集 上

こばやしひでお

小林秀雄

二〇一一年七月八日第一刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽 2・12・21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395・3513

販売部 (03) 5395・5817

業務部 (03) 5395・3615

デザイン——菊地信義

印刷——豊国印刷株式会社

製本——株式会社国宝社

本文データ制作——講談社デジタル製作部

©Haruko Shirasu 2011. Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料は小社負担にてお取替えいたします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文芸文庫出版部宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。



ISBN978-4-06-290129-1

目次

昭和五年

アシルと亀の子 I	一〇
アシルと亀の子 II	二四
アシルと亀の子 III	三七
アシルと亀の子 IV	四六
アシルと亀の子 V	五六
文学は絵空ごとか	六五
文学と風潮	七五

横光利一

物質への情熱

九七

昭和六年

マルクスの悟達

一一二

文芸時評

一二六

心理小説

一三三

室生犀星

一四三

再び心理小説について

一五七

「安城家の兄弟」

一七〇

文芸月評 I

一八四

昭和七年

梶井基次郎と嘉村礒多

一九六

現代文学の不安

二〇七

昭和八年

故郷を失った文学

二二二

文芸月評Ⅱ

二三四

批評について

二四四

文芸時評

二五四

文芸月評Ⅲ

二六四

昭和九年

文学界の混乱

二七六

新年号創作読後感

二九二

文芸時評

三〇三

レオ・シェストフの「悲劇の哲学」

三二四

林房雄の「青年」

三二七

小林秀雄全文芸時評集 上

kobayashi hideo
小林秀雄

講談社



文芸文庫

目次

昭和五年

アシルと亀の子 I	一〇
アシルと亀の子 II	二四
アシルと亀の子 III	三七
アシルと亀の子 IV	四六
アシルと亀の子 V	五六
文学は絵空ごとか	六五
文学と風潮	七五

横光利一

物質への情熱

九七

昭和六年

マルクスの悟達

一一二

文芸時評

一二六

心理小説

一三三

室生犀星

一四三

再び心理小説について

一五七

「安城家の兄弟」

一七〇

文芸月評 I

一八四

昭和七年

梶井基次郎と嘉村礒多

一九六

現代文学の不安

二〇七

昭和八年

故郷を失った文学

二二二

文芸月評Ⅱ

二三四

批評について

二四四

文芸時評

二五四

文芸月評Ⅲ

二六四

昭和九年

文学界の混乱

二七六

新年号創作読後感

二九二

文芸時評

三〇三

レオ・シェストフの「悲劇の哲学」

三一四

林房雄の「青年」

三二七

小林秀雄全文芸時評集上

昭和五年

アシルと亀の子 I

私は文芸時評というものを初めてするのである。川端康成氏に「今月の雑誌一とそろい貸してくれないか、文芸時評を書くんだ」と言ったら、「君みたいに何んにも知らない男がかい」と、彼はふきだした。何も弁解なんかしてるんじゃない。私はただ、最近、文芸批評家諸氏の手で傍若無人に捏造ねつぞうされた、「アヂ・プロ的要求」だとか、「唯物弁証法的視野」だとか、「文壇的ヘゲモニー」だとか、等々の新術語の怪物的堆積を眺めて、茫然として不機嫌になっているばかりだ、という事を、まずお断りして置く方がいいと思ったのである。

仲間が仲間の符牒ふちようを発明して行くのは当然な事であって、例えばテキ屋諸君はテキ屋諸君の符牒を活用する。そして彼等の間では、符牒は實際行為に関して姿をあらわすだけだから、符牒は常に正当な役割を謙譲に演じている。だが、批評家諸君の間では、符牒は精